

令和4年度（2022年度）学校版環境ISOへの取組  
〈氷川町及び八代市中学校組合立氷川中学校〉

1 取組の概要報告

（1）氷川中学校環境版 ISO の宣言項目

宣言	<p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○節電・節水・節紙を心がけます。</li> <li>○ペットボトルキャップを回収し、リサイクルを行います。</li> <li>○学校の美化に努めます。</li> <li>○晴れた日の昼休みは校内全面消灯をし、電気使用量を削減します。</li> <li>○掃除の時はバケツを利用し、節水に努めます。</li> <li>○地域のごみ分別収集に参加し、燃えるごみの削減に努めます。</li> <li>○学校から出た資源ごみは、再利用できるように分別をします。そのために、3Rを意識します。</li> </ul> <hr/> <p>【職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○節電・節水・節紙を心がけます。</li> <li>○ペットボトルキャップを回収し、リサイクルを行います。</li> <li>○学校の美化に努めます。</li> <li>○地域・家庭への呼びかけを行います。</li> <li>○両面印刷や裏面の再利用で紙の消費量を減らします。</li> <li>○紙の処分は溶解処理を利用してごみを減量します。</li> <li>○夏季（6月～9月）は、室温が29度以上の際、26度～28度の設定温度でエアコンを使用することにより、電気料を節約します。</li> <li>○冬季（12月～2月）は、室温が10度以下の際、18度～20度の設定温度でエアコンを使用することにより、電気料を節約します。</li> </ul>
----	---

（2）行動と記録

①節電・節水・節紙

環境 ISO のポスターは以前から掲示してあったが、経年劣化が見られたため、新たに節水と節電を呼びかけるポスターを作成した。（資料1・2）そして、新たな取組として、校内の掲示板に環境コーナーを設置した。学校の月別の電気使用量や水道使用量をグラフ化し、昨年度、一昨年度との比較をすることで、何気なく学校生活を送る中でも節電や節水の意識を持てるような工夫をしている。加えて、SDGs 関連の新聞記事を掲示し、持続可能な社会を作っていくための意識付けも試みている。（資料3・4）

（資料1）



節水を呼びかける ISO ポスター

（資料2）



節電を呼びかける ISO ポスター

（資料3）



環境コーナーの電気・水道使用量

（資料4）



SDGs 記事

さらに、掃除中の消灯や、清掃で使用する水はバケツに貯めた一定量の水を繰り返し使うなど、節電・節水の意識化を図っている。(資料5) 職員室内には再利用紙 BOX を設置し、職員に配布する印刷物は再利用紙を利用するなどして節紙も心がけている。(資料6)

また、授業中のドリル学習や参照資料を提示する際に ICT 機器を利用することが節紙にもつながっている。さらに、職員会議などの資料はデータ化し、パソコンの共有フォルダに入れて閲覧できるようにすることで、紙の使用料を減らすような工夫も行っている。(資料7)

(資料5)



掃除中のバケツの利用

(資料6)



再利用紙 BOX

(資料7)

01	R 4	4 月	2022/04/13 15:06	ファイル フォルダー
02	R 4	5 月	2022/05/18 11:56	ファイル フォルダー
03	R 4	6 月	2022/06/15 11:24	ファイル フォルダー
04	R 4	7 月	2022/08/25 8:25	ファイル フォルダー
05	R 4	8 月	2022/08/25 12:49	ファイル フォルダー
06	R 4	9 月	2022/09/14 15:21	ファイル フォルダー
07	R 4	10 月	2022/10/17 12:24	ファイル フォルダー
08	R 4	11 月	2022/11/15 8:05	ファイル フォルダー
09	R 4	12 月	2023/01/06 18:01	ファイル フォルダー
10	R 5	1 月	2023/01/18 11:45	ファイル フォルダー
11	R 5	2 月	2022/03/23 11:41	ファイル フォルダー
12	R 5	3 月	2022/03/23 11:42	ファイル フォルダー

職員会議資料のデータ化

## ②ペットボトルキャップ回収

生徒昇降口にペットボトルキャップ BOX を設置しており(資料8)、環境美化委員会で定期的に回収の呼びかけを行っている。また、環境美化委員の生徒たちにより、8 月末の 1 週間で「ペットボトルキャップ回収」を、11 月中旬の 1 週間で「ペットボトルキャップクラスマッチ」を行い、回収強化週間を設定した。(資料9・10) ペットボトルキャップをより多く回収することで、交換できるポリオワクチンの数を増やすことができ、一人でも多くの命を救うという説明を環境美化委員より行い、ペットボトルキャップを回収することの意義や目的を明確に示した。8 月のペットボトルキャップ回収では、個数はたくさん集まったものの、持ってきた人数は学校全体の 25%にとどまった。そこで、11 月のペットボトルキャップクラスマッチでは、「キャップを持ってくる個数ではなく、1 個でもいいから持ってこようとする、この活動に協力しようとする思いが大切だ」ということを話し、個数にこだわるよりも学校全体で意識を高めることを心がけた。その結果、キャップを持ってきた人数は学校全体の 60%となり、前回は大きく上回った。来年度も、一人でも多くの人がこの取組に参加するように、細やかな呼びかけを徹底していきたい。また、この活動を行うことにより、ボランティア精神を養うとともに、リサイクル活動の活発化により、環境保全の意識を高めることにもつながっている。(資料11)

(資料8)



生徒昇降口にある回収箱

「ペットボトルキャップ回収」(上)と「ペットボトルキャップクラスマッチ」(下)によって回収したペットボトルキャップ。  
回収したペットボトルキャップは今年の2月にリサイクルに出す予定。

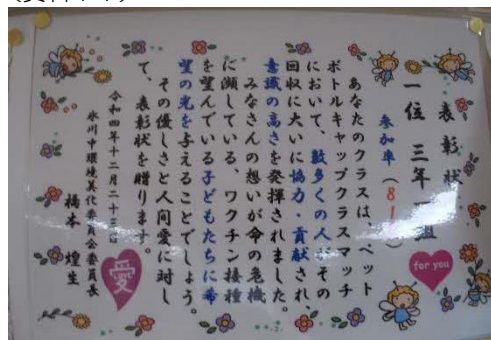
(資料9)



(資料10)



(資料11)



ペットボトルキャップクラスマッチの表彰状。  
クラスの参加率で表彰を行った。

### (3) 考察

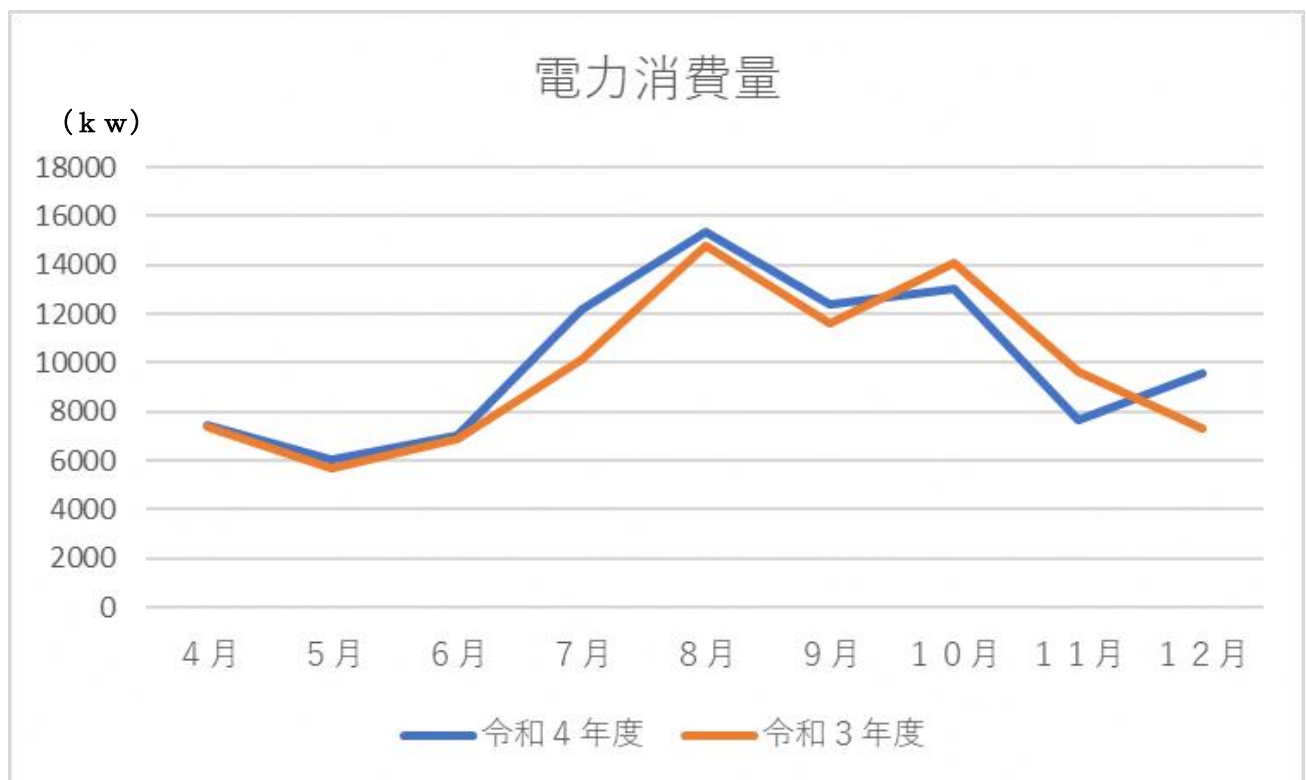
電気使用量・水道使用量は以下のとおりである。氷川中学校は、学校校舎と給食室分が含まれているため、電力消費量、水道使用量が高くなっている。ポスターの掲示や環境美化委員による節電・節水の呼びかけ、清掃中の消灯、清掃で使用する水をバケツに貯めて使うなど、節電・節水を学校全体で心がけてきた。しかし、電力消費量は昨年度を上回る結果となった。今年度も昨年度に引き続き、コロナウイルス感染症の予防のために、ドアや窓を少し開けるなどの換気をして冷暖房を使用していたため、多くの電力が必要だったと思われる。それに加えて、電気使用量が増加した要因はあと2つあると考えられる。1つ目は、生徒数が増えたことで昨年度よりもクラスの数が増えたこと、そして2つ目は、個別支援を必要とする生徒が増えたことである。これらのことによって使用する教室の数が増加したため、昨年度よりも電気使用量が増加したと考えられる。

一方で、水道使用量は昨年度を下回る結果となった。生徒数が増えているにもかかわらず、使用量が減少しているということは非常に良いことである。節水の呼びかけの効果もあると思うが、10月～12月の使用量が大幅に減少しているため、それ以外にも要因があると考えられる。昨年度の学校行事や取組と比較しながら考察したが、要因解明には至らなかった。節電や節水の取組を徹底した結果、電気・水道使用量の削減につながるよう、これからも学校全体で意識を高めていきたい。

(資料12)

電力消費量	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
令和4年度	7475	6051	7031	12181	15359	12365	13034	7637	9559	90692
令和3年度	7414	5671	6891	10162	14786	11632	14071	9626	7289	87542
差(kw)	61	380	140	2019	573	733	-1037	-1989	2270	3150

(資料13)

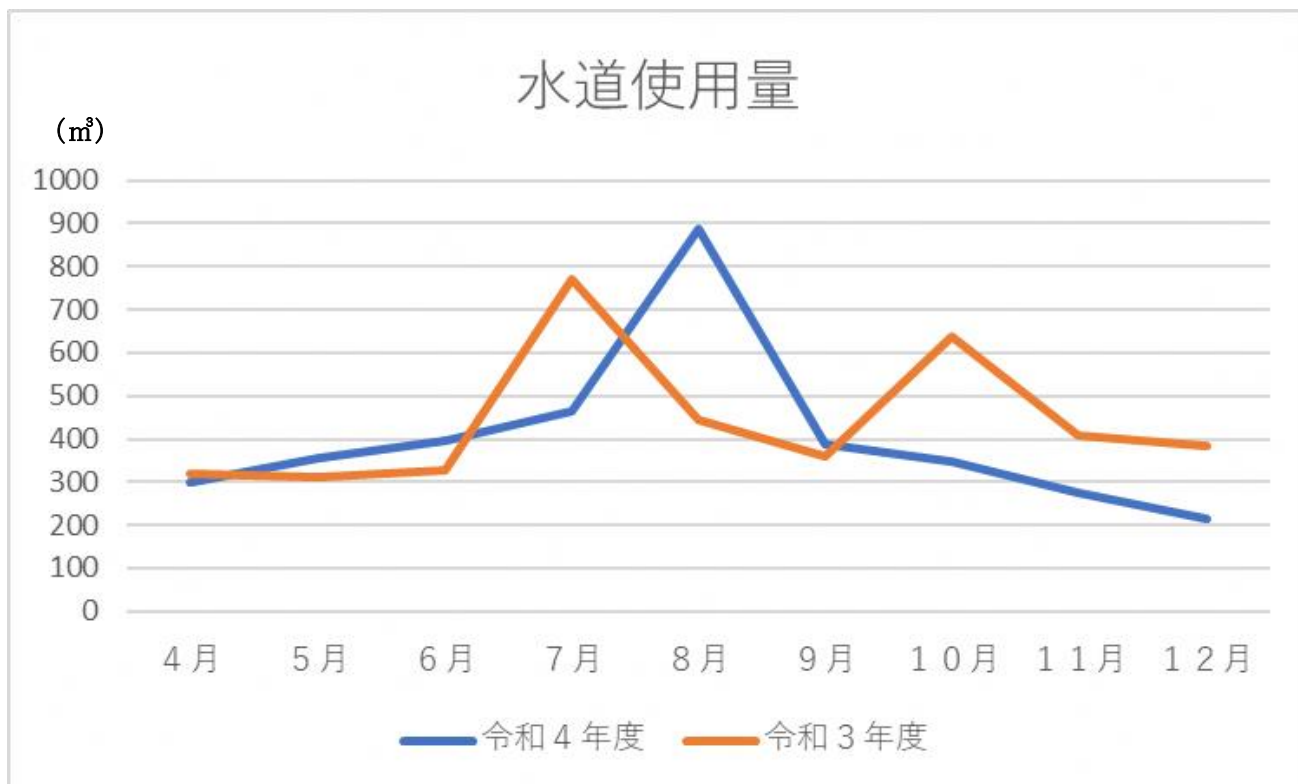




(資料14)

水道使用量	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
令和4年度	300	354	394	463	889	387	349	276	214	3626
令和3年度	318	310	328	772	446	358	636	409	385	3962
差 (m³)	-18	44	66	-309	443	29	-287	-133	-171	-336

(資料15)



### 3 成果と課題

○ペットボトルキャップ回収は、個数よりも持ってくる人数を重視することで、生徒の意識も向上している。また、家庭や地域住民の方にも文書を配布して、連携しながらリサイクル活動を行うことができた。

○節紙については、両面印刷や裏面の再利用で紙の消費量を減らそうと取り組む職員が多かった。また、昨年度よりもICTの活用により、紙の消費量を減らすことができていたと考える。

○節電・節水に関しては、ポスターの掲示や環境美化委員による節電・節水の呼びかけ、清掃中の消灯やバケツの利用など、意識を高めてきた。しかし、電気使用量は昨年度を上回る結果となり、まだまだ改善の余地があることがわかった。様々な諸事情に起因しているとしても、今後も学校全体で節電の意識を高める方策を考えていきたい。また、水道使用量は昨年度よりも減少している結果となり、節水の意識が高まっていることもわかった。

○「氷川町ごみ減量化標語コンクール」に応募する標語を全校生徒から募集し、環境問題について考える機会を設けたことで、ごみを減らす意識の向上を図った。

○掲示板に環境コーナーを設けたことで、SDGs問題について触れる機会を増やしたり、実際の電気・水道使用量をグラフ化して自分事として捉えさせる工夫をした。